

小田原史談

第31号
談会
小田原市一丁目
小田原市幸文
小田原市土郷

印刷の御用は
清水印刷

小田原市幸一ノ一七
電話小田原三四七七番

東と西

酒井温理(遺稿)

世界文化は、西亜細亜か、東欧羅巴に発祥したというが、その二大文化交流は、全く相反する進路をとり、一は東漸、他は西漸した。

東漸文化交流は、イラン・西蔵・印度・支那を横断して、日本に渡り、太平洋に前進をさそわれ、日本は東漸文化交流の貯蔵国となった。

西漸文化交流は、バビロン・埃及・ギリシャ・土耳其・羅馬等の文化を携えて、大西洋を渡り、米大陸に行き均しく太平洋に前進を阻止され、米国は西漸文化の貯蔵国となった。

米国は大国である。故に西漸文化は南北米大陸に拡がった。日本は極東の一島国にて東漸文化の広がるべき余地がない。故に日本においては、東漸文化は深く拡がった。京都・奈良に見る文化はそれである。

箱根駒ヶ岳より遙かに浅春の富士を望む



世界第二次大戦終焉して東漸文化交流は、太平洋を渡って日本へ来た。かくして日本は世界文化の坩堝(ルツボ)となった。日本は世界文化混乱の巷となった。混乱は、新秩序の先駆者である。世界文化は、日本の坩堝において、新秩序として発現すべきは当然である。旭の国日本、ここに新秩序の発祥すべきは期し

て俟つべきであろう。

附記・酒井先生は青山学院に学び、多年教育に従事、終戦後進駐軍の民情部長として活躍。日本の歴史及び風俗民情を紹介して進駐軍司令官より感謝状を受けること数回。一昨年八十五才にして死去された。本稿は生前特に我が小田原史談会のために寄稿されたものである。(斐田)

花を植えて

花を植えて以て蝶を遊ぶべし。
石を累ねて以て雲をむかふべし。
松を栽えて以て風をむかふべし。
柳を植えて以て蟬をむかふべし。
水を貯へて以てうきくさをむかふべし。
台を築いて以て月をむかふべし。
蕉を種ゑて以て雨をむかふべし。
書を蔵して以て友をむかふべし。
徳を積みて以て天をむかふべし。
註・かういふことが生活の芸術化であり、道徳と芸術の生活化である。
(格言聯璧)
安岡 正篤

太田 道灌

小田原の役をつとめて、をのをのかへり侍りける箱根の別当長樂法印酒をすすめてあるしまうけしけるとき、駅のやどりに花のちりけるを見て、法印歌をすすめられ侍るに

おもはずも思ひのほかに見る花の
散れる名残りをなど惜しむらん
返し
散る花の名残りをなど惜しむらん
心のままの春にあふ身は
長 巽 法 印
(藤京集より)

隨筆

文化財と史談

襲田長平

「文化財保護法」という法律ができて以来、世人に文化財に対する関心が深まってきたのは結構なことである。

ここ数年來NHKの「文化財の旅」を各地方地方の風物や神社仏閣を披露してくれるのは有難いことである。ところで団体旅行のお上りさん相手にベテランらしい案内者の説明には、往々おかしさを禁じ得ないものがある。ある斯道権威者の経験談の一つに、奈良の大仏で有名な東大寺の南大門にある鎌倉時代の名匠蓮慶・湛慶作の仁王像を指して案内者が一段と声を張りあげて「左は蓮慶、右は湛慶で、双方とも左甚五郎の名作でございます」と言ったのに可笑の爆発をおさえつづけるのに苦心したという話を聞き、私も大笑いをした。よく聴く話であるが、案内者が鎌倉の鶴ヶ岡八幡宮の宝物館に在る頼朝のシヤレコーベを説明すると、

こにハッキリした一線を引いて混同してはならぬ。伝説は伝説として重要性があり、軽視してはならぬのは申すまでもないが、これを実説として取り上げると危険が伴う。一例をあげると、藩主稲葉侯が長興山經大寺を建設するときに、はじめ備外を招聘するはずであったが、備外が固辞するので鉄牛和尚を迎えたところ、さもありなしの、ある記録にあるのを見たが稲葉侯ともあろうものが、当時乞食坊主としか見られなかつた風外を招ぶはずもなく鉄牛和尚の開山は史実上明確にされているので疑がう余地もなく、かかる根拠のない誤った記事は世の物笑いとなるのみでなく後人を誤らせることにもなる記事にはなるべく考証、出典を明記しておきたいものである。

「文化財保護法」が制定され「文化財保護委員会」なるものが小田原市にも制定されているようだが、これによって文化財に関する保護や啓蒙も着々進められていることと思うが、一般の人々の関心や認識も未だ十分とは言われまい。いま

かねがね頼朝は本身であつたと聞いていた見物の一人が、ずいぶん小さい頭だといふと、案内者はすかさず「これは頼朝公の七才のときのシヤレコーベでありまして」と説明したという。恐らくこれは落し話して真実の話ではないと思うが、これに類する話は往々聞くと、昨年のことであつたか、小学生の修学旅行に付添いの女の先生が、電車が二宮駅を通過するとき「ここは有名な二宮尊徳の誕生されたところだ」と説明したのを同じ車室にいたという友人から聞いてあきれかえつた。落語ならば罪もなく笑つてしまさるが、こんな間違いは教育上すまされぬと思う。小田原でも時々間違つた説をなす人を見受ける。その人の独創かどうかは知らぬが、世人を誤らせる罪は大きい。確実なる考証によつて発表するのと、単に伝説として掲げるとは、そ

や我が史談会も文化保護委員と呼んで大いに活躍する時機に到達しているのではあるまいか。

小田原の乗物

内田四方蔵

東海道新幹線も、小田原付近は試運転もそう遠くないと云えられる。明治以来百年間の交通機関の移り変わりはめまぐるしく、とくに小田原付近の乗り物の変遷は、近代日本のモデルともいえよう。

カゴから人車まで

中沢正英という人が、明治三十四年に九才のとき、母親に連れられて熱海に入湯に行ったときのことを、古い勘定書を基にして書いた文章を読んだことがある。氏の郷里は長野県の諏訪の在であつた。家を出て、しばらく歩いたあと、母親はカゴで、氏は人の背に負われて山道を越えた。平らなところへ出てからは、人力車に乗つて大屋駅に着き

そこから汽車で東京の上野駅まで来た。上野から鉄道馬車で、銀座を通つて新橋に出、それからまた汽車に乗つた。国府津で汽車を降り、小田原までは電車、小田原から熱海までは、人車で行つたというのである。徒歩・カゴ・人力車・汽車・鉄道馬車・電車・人車とめまぐるしく乗り物を変えて、当時の日本で使われていた交通機関のほとんどを利用した小旅行として珍らしい体験だ。

この旅程は五日間であつた。ついでにその賃金を示すとカゴ代四円、ワラゾウリ二銭五厘、人力車一人一円二十銭、大屋上野汽車賃一円五十九銭、鉄道馬車十二銭、新橋国府津汽車賃九十二銭、国府津小田原電車賃二十一銭、小田原熱海人車一円〇五銭となつていてカゴと人力車が割り高になつているのは、昔でも人権費が何よりも高かつたことを示している。

これらの乗り物に軽便鉄道と汽船と普通の乗合馬車とを加えれば小田原に姿を見せた交通機関をもうらしたことになる。

神奈川との間に定期乗合馬車ははじめられたが、これは翌年に廃止された。新橋から国府津まで汽車が開通したのは明治二十年で、翌二十一年に国府津から湯本まで馬車鉄道が開業して箱根への便をよくした。小田原から湯本まで三十分で六銭、小田原から湯本まで三十五分かつて、八銭であつた。この馬車鉄道が電気鉄道となつたのは明治三十三年でこのとき小田原にはじめて電灯が点火した。国府津小田原間には大正九年に汽車が通るようになったので、翌大正十年には小田原国府津の電車は廃止となつた。大正六年生れの私は、この電車に乗つたことは憶えていないが、その軌条の少しばかりが今の信用金庫の少し先きの稲妻屋の前で曲つていつまでも残つていたのを見て何のためだろうと思ふに思つていたものだ。

電車がなくなつてからはまた乗合馬車が幅をきかしたのには、時代逆行の趣があつた。

電車・乗合馬車

年表によると、明治二年に發明された人力車が、小田原へはその翌年に三台入つている。明治十二年にばこの馬車に乗つて、私はよく酒匂村の親戚まで行つた。うす暗い四角な箱の中へ上つて、木のかたい腰掛

鉄道記念物 (三)

額田喜代春

我々國民にショックを与

えるような大きな列車衝突事故が、昨年十一月九日東海道本線鶴見と横浜間で発生し、次いで中央線立川駅で入換中の貨車暴走事故とさきには三河島駅構内での三重衝突事故、国鉄はここ数年來相次ぐ重大事故の発生で、國民からいろいろと批判されて、いつものことながら事故發生の都度、当局ではあらゆる専門的視野から、原因の究明に努力してきているが、その直接的な原因は複雑でなかなかつかめないよう、最近識者の間にその根本的な原因は、国鉄の適密ダイヤにあるのではないかと、去る一月二十九日開催の国鉄監査委員会の議決によれば、「過密ダイヤを解消させる方法」を指摘されているが事実東京附近の列車密度は二分から二分三十秒間隔で次々と列車・電車が、まるで光の河のように走り回っている。

一月末に我が国を訪れたソ連の交通大臣等の一行は、日本の国鉄は軽業師だ、と驚嘆していたというが、この全国で二万五千キロ余りを走り回っている列車は数十万箇にも及ぶであろう。「分岐器ポイント」を、電気或は手動式で動かし、その上を列車・電車が右に行き先きを変えて進行しているのであるが、日本で一番古い「ポイント」を紹介しましょう。

これは昭和三十六年十月十四日第八十九回鉄道記念日に、我が国の鉄道発展史上特に記念すべきものとして「鉄道記念物」に指定されたもので、現在までに二十三点が指定されているので稿を追って更に掲載することといたします。(本誌談第二十一号に「鉄道〇哩標識」、第二十三号に「一号機関車」を掲載済み)

長浜駅
旧29号分岐ポイント部
保存場所
北陸本線長浜駅構内

長浜駅の構内には、日本最古の長浜駅舎があって(次号に掲載予定)この建物は昭和三十三年に鉄道記念物として指定され、鉄道の建築史上貴重な参考資料となっているが、更に昭和三十六年には同駅構内にあった旧二十九号分岐器が現在我が国にある最も古いものとして、重ねて鉄道記念物に指定されたものである。

つまり同駅では二つの鉄道記念物を持つことになるわけで珍らしい話題であるこの分岐器のポイント部分は、明治十三年(一八八〇年)長浜から敦賀までの鉄道が建設されるに当って、イギリスからカムメル会社製のものを買い入れたもので重量は三十キログラムでこの分岐器は明治十五年三月、長浜と柳ヶ瀬間の鉄道開通の時から同二十二年七月に、関ヶ原と米原間の新線開通によって関ヶ原と長浜間の旧線が廢線となる(明治三十二年十二月)まで長浜駅構内の重要な分岐器として使用されたのである

現在の北陸線の上では、長浜駅は米原駅を発点として四つ目の駅に当るが、北陸線の創設当時には美にこ

の長浜駅が起点であったのである。

長浜駅の構内にあったいろいろの施設は路線変更の際、その大部分が米原駅の構内に移されたが、この分岐器は依然として長浜駅の構内に残され、昭和三十六年三月二十八日に至る約八十年の長い間、裏日本主要幹線の輸送上に大きな役割を果たしてきたのである。

八十一年の風雪は決して生やさしいものではなかったであろう。今では著しく磨耗しているであろうこの老練兵ならぬ、古びやかな分岐器をスクラップしないで、古きをたずねる記念物として永しえに保存してやって下さい。

(次号は旧長浜駅舎)

(小田原乗物つゞき)
けに坐り、子供にはちょっと高い小さな窓を見上げて息をひそめるようにして、デコボコの道を揺られつつけて行った。窓からは、雲の流れている空だけ見えないつも青物町を下って、一丁田の角から乗った。帰りに酒匂から乗るときは、大きな並木の松に赤い小旗が結びつけて貰って、それが

人車・軽便鉄道

早川口から熱海まで人車鉄道が開通したのは明治二十九年であった。人車のこととは、子供の頃よく母親に聞かされ、なかなか本当に思えなかった。トロッコに座席を造って客が乗り、人夫が押して走ったものだという。急カーブなどは随分危険だったらしい。後年牧野信一の小説の中で人車のことを読んで、なつかしかった。

明治三十九年にこの人車が軽便鉄道に変わった。この停留所の跡が早川口に残っていたのと、小さな汽灌車あの付近に雨ざらしになっていたのを覚えていた。旧早川橋までの道の真中が、何だか少しへこんでいたのは、その軌条を外した跡だったのだらう。

大正十一年には真鶴まで十四年には熱海まで汽車が開通した。

小田原から点々と村に寄りながら熱海の方へ通っていた。

魚市場の下の海岸からハシケが出て本船と連絡していた。本船は大分沖合の潮の変り目がなくなる境目あたりに停っていたようだ。海岸からハシケは普通の細長い和船の底の広いものだった。

波の荒い沖の海上で本船に乗り移るのは怖かったに違いない。汽笛をポーと二度ばかり鳴らして、くるりと向きを変え、江の浦の白い断崖の方へと小さくなって行く汽船の姿は、今も頭に焼きついている。私の叔母は郷里の伊豆と小田原の間をよく往復していたが、バスに弱かったせいか、後年まで汽船の旅の快さを口にしていた。

しかし、島崎藤村の「熱海土産」を読むと、大正十三年の夏と思えるが、このとき藤村は早川から乗船していて、汽船の中は座席もなく、暑さ寒さにつけ、また雨の時など大変な難儀だったと想像される。明治・大正の当時は伊豆方面への旅は、陸も海も全く容易ではなかったようだ。

汽船

汽船は国府津から来て、

文苑

国旗

立松 貞子
オリピックとつ国々の若
人に勝ちてかがげよ日の丸
の旗

峯 堅雅
宮城に参賀する孫ほこりか
に日の丸の旗高く手に持つ
三宅まさ子

声の湖やユネスコ村の万国
旗湖にうつりて平和なるさ
ま

里梅

沢村みどり
菜を洗ふ少女の髪にも流れ
にも梅はこぼれて春のどか
なり

夜雪

佐藤 春子
氷る夜に傘うち私ふ音すな
り雪の夜道を誰が訪ねけむ

江の島岩本校に歌の
友と遊びて新婚旅行
の若かりし日と思ひ
出しますま (斐田)
うち寄せてまた引返す男女
波に思い出で深し江の島の
やど
ここに来てしばしまどろむ
おはしまはかなく消えし
夢を追いゆく

若き日と思ひ浮べて江の島
に語るもたのし老らくの友

広沢十五夜

あらくさの芽の艶もてりお
ぼろ濃く
月おぼるなべてこの空深め
けり

葉桜の照り返す光窓にして
雲雀鳴く野面はるかや日に
応ふ
おぼろ夜の星座を恋ふてか
たくなに
このあたり麦萌えすでに光
る風

雑報

平安朝時代の土器

駒ヶ岳より発掘

箱根駒ヶ岳頂は平安時代
には既に山岳信仰でにぎわ
っていたとみられるのは、
去る四月十六日より古墳の
発掘調査が行なわれ、大場
国学院大学教授、坂詰立正
大講師らの調べで、平安時
代のもと思われる土器の
かけら三十個と鎌倉時代の
宋銭一枚が出てこのほど調
査を終った。
江戸かぶり物展
郷土文化館は開館十年を
迎える記念事業と江戸・明
治時代のかぶりもの(陣笠

・編笠・頭巾・帽子等)展
を五月十七日より三十一日
まで開らくことになった。

北条五代の遺品展

五月十日より小田原城天
守閣に北条五代に亘る遺品
(秀吉や早雲の手紙、刀劍
碁盤、石垣山一夜城、小田
原城の古地図等)を展覧し
歴史上貴重品揃いのため専
門家学生其の他一般の観光
者で城内は賑っている。

九華和尚について

おたずね

九華和尚は大隅の人で足
利学校の第七代の校長をつ
とめ戦国時代を通じての大
学者であり。その訓育を受
けた生徒三千名ともいわれ
ています。小田原の北条氏
が彼を非常に敬仰し、帰郷
したいというのを無理に引
き止めて小田原の学問指導
に当らせ、多大の功績を殘
し、遂に歸郷できずに天正
六年七十九才で病歿し、そ
の墓は足利にあります。
禅師の小田原在任の期間
や逸話等承知したいのです
が記録が見当りません。ご
承知の方は係までお知らせ
下さい。お願いします。
(M)

<p>小田原駅前 職業安定所前向い</p> <p>喜仙寿し</p> <p>江戸風味天婦ら</p> <p>TEL 3747</p>	<p>日本銘菓指定店 神奈川県指店銘菓店</p> <p>山口菓子舗</p> <p>井細田店 小田原駅前店 TEL 2215 箱根湯本店 // 5641</p>	<p>報徳証券株式会社</p> <p>小田原市幸1~162</p> <p>電話 ☎ {6128(代) 7537}</p> <p>利殖の早途は証券投資から 安全確実な利殖投資</p>
---	--	---

<p>セトモノの御用は (陶磁器・陶管・植木鉢)</p> <p>大川商店</p> <p>有限会社</p> <p>TEL 8513・3055</p>	<p>浄化槽の清掃修理</p> <p>小田原市線1の47</p> <p>小田原衛生株式会社</p> <p>電話 ☎ 5861・2468番</p> <p>取締役社長 鈴木 浩</p>	<p>電気工事一式・設計・請負 販売修理</p> <p>兵藤電気商会</p> <p>小田原市下曾我駅前 電話 国府津 ☎ 3578番</p>
--	---	---

<p>御料理 仕出し 御弁当</p> <p>東華軒</p> <p>株式会社</p> <p>代表取締役 飯沼相三郎</p> <p>小田原駅前 TEL (0465) 5061~2</p>	<p>楽しい生活 明るい読書</p> <p>八小堂</p> <p>小田原駅前 TEL 5388~9</p>	<p>志澤</p> <p>TEL 3131</p>
--	--	----------------------------------